

# こゝじのう

## 掲示板

発行所 (社福) 千葉県身体障害者福祉事業団  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
発行責任者 高次脳機能障害支援センター  
センター長 大塚 恵美子  
〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2  
043-291-1831 (代) 内 198



発行日 2014年11月29日

## 菜の花 メッセージ

千葉県健康福祉部 障害福祉課  
課長 古屋 勝史

日頃より本県の障害福祉施策の推進に御理解と御協力いただきまして、御礼申し上げます。今年8月に障害福祉課長として着任いたしました、古屋勝史と申します。

さて、本県では、平成18年より、高次脳機能障害のある方への支援として、千葉リハビリテーションセンター（千葉市）、旭神経内科リハビリテーション病院（松戸市）及び亀田メディカルセンター（鴨川市）の3か所に支援拠点機関を指定させていただき、この支援拠点機関に支援コーディネーターを配置することで、地域特性を踏まえ、身近な相談窓口としての体制を整備してまいりました。また、平成23年より、千葉リハビリテーションセンター内に、新たに高次脳機能障害支援センターを設置し、より高度な専門的支援ができるよう機能強化を図っております。

さらに、県では、現在、障害者基本法に基づき、平成27年度から平成29年度までの3年間を計画期間とする「第5次千葉県障害者計画」の策定作業を進めており、高次脳機能障害のある方への支援等については、多くの皆様の御意見も参考にさせていただきながら、本計画を策定していきたいと考えております。

高次脳機能障害は、「見えない障害」ともいわれており、周囲の方も含めた県民へのわかりやすい普及啓発が必要であり、地域の関係機関と連携した支援体制の確立が重要と考えています。今後も高次脳機能障害のある方への支援の充実に努めてまいりますので、御協力いただきますよう、お願いいたします。

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。

全国の動き

第 9 回関東甲信越・東京ブロック合同会議

開催 7 月 31 日 (木) 大宮ソニックシティ

7 月 31 日関東甲信越ブロックと東京ブロックの合同開催で、各都県および支援拠点機関が一堂に会した。最初に中島八十一国立障害者リハビリテーションセンター学院長より、基調講演「高次脳機能障害支援普及事業平成 26 年度事業運営方針」があったが、その中で支援普及事業は継続するが、来年度、厚生科学研究はなくなるという見通しを示された。したがって、本合同会議は今回で最後となるとのことであった。

次に、「支援拠点機関の運営や地域ネットワーク構築等に掛かる課題」と「就学・就労などの社会参加支援に係る課題について」という二つの課題に関連して取り組みの状況を各都県が報告した。

先進的と感じる取り組みでは、神奈川県から、地域内での支援実績の累積が、高次脳機能障害に特化した支援の必要性の認識に繋がるよう相談支援事業所に働きかけながら、通所先や専門相談窓口の開設に至ったという報告があった。神奈川県は医療も福祉もある総合リハビリテーションセンターにある支援センターが高次脳機能障害支援を担う点で共通点があり、当センターとしてその地域支援の進め方をさらに詳しく学びたいと考えた。また、「就労を考える会」という就労している高次脳機能障害者同士での意見交換を家族会との協働で実施して、地域内での就労定着支援活動としていたとの報告もあった。千葉リハとしては、更生園と支援センターの共催で就労定着支援を目的として集団活動であるカフェ輪駆を行っているが、より地域と協力を進める形を探れないかと考えた。

全国あるいは関東甲信越の各県でどのような支援を行っているのかを報告しあう場が来年度からなくなりそうだが、

何らかの形で隣接する都県いくつかの支援コーディネーターが集まり情報交換する関係を保つことが支援の質を担保するためには必要であると感じている。  
支援センター 大塚

千葉の動き



平成 26 年度高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会

開催 10 月 30 日 (木) 千葉県庁

この協議会は、地域の実態把握、関係機関の連携確保、効果的な支援方法、普及啓発方法等について総合的な検討を行うことを目的として千葉県、各支援拠点機関、関係団体等が集まって開催されるものです。

古屋障害福祉課長のあいさつの後、障害福祉課より協議会の設置要綱改正の説明と、現在策定中の第 5 次千葉県障害者計画（計画期間：平成 27～29 年度）の概要について報告がありました。高次脳機能障害については、今後のニーズの把握等の基礎となる実態調査の検討を進めていくことが新たに記載される予定とのことでした。

その後、各拠点機関の取り組み状況の報告、支援に関する事例報告及び家族会から話題の提供がありました。今回取り上げられた事例及び家族会からの話題提供を通じて、高次脳機能障害について様々な方への理解を更に進めていく必要があること、御家族や様々な職種の職員、関係機関等が連携を密にして支援を継続していくことがとても大切であり、このような連携がより一層充実することによって、様々な障害をお持ちの方がそれぞれの地域での生活を支えるための更なる力になることを改めて感じる時間となりました。 支援センター 山田

「ちょっと雑談でもしてみませんか？」

高次脳機能障害支援センターや更生園の活動を終了して働き始めた方、働いて少し年月が経っている方にお声をお掛けして cafe`輪駆 を開催しました。今回は三回目の開催。カフェなのに、鍋を囲んでの近況報告となりました。



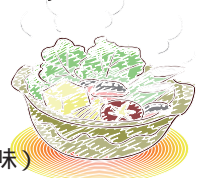
参加人数 14 名・スタッフ 8 名

みんなで調理スタート！



今回は、更生園にて皆で鍋を作りました。

- メニュー
- せんべい汁
- いも煮 (みそ味)



最後は自己紹介と近況報告

|             |     |
|-------------|-----|
| 自己紹介        |     |
| 名前          | 会社名 |
| 復職してからの期間   |     |
| 一番好きな音楽 (曲) |     |



講師 先崎章氏

## 第 10 回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会

千葉県内の医療・福祉等の支援者の方たちを対象とする千葉懇話会を 9/5 千葉市民会館小ホールにて開催。今回は、『高次脳機能障害者への対応～社会的行動障害への対応も含めて～』の演題で、東京福祉大学教授 先崎章先生に講演していただきました。アンケートでは、「事例、取組が紹介されて、非常に参考になりました」「勉強になりました」の声が多く見られました。7 割の方が初めて参加もあり、今後、研修会において期待することとして、「リハビリテーションや支援のある面に専門的な内容」「新人も気軽に参加できる基礎的な内容」と勉強会、講演会を希望する回答が 6 割以上占めていました。(参加人数 172 名、医療 6 割、福祉、就労支援 1 割)

なお講演の中で、当事者への対応に有効な表現が満載とご紹介いただいた説明テクニック集をご紹介します。

### 高次脳機能障害の方に 上手に伝わる説明テクニック集

発行 日本脳外傷友の会 / 編集 阿部順子  
 製作協力 リハビリテーション心理職会 / 価格 300 円  
 発行日 平成 26 年 8 月 5 日発行  
 問合せ 日本脳外傷友の会 ( jtbia2000@jtbia.org )



(9/5 千葉市民会館 小ホール)

## 小児高次脳リハプログラミングプロジェクトでの取り組み

- 〈1〉 外来でのグループ訓練……発達に応じた集団活動や話し合いを通して自分の障害に気づき、どう対処したらいいか学びます。学校とは違う場所で同じ立場の仲間と出会い一緒に取り組める活動です。
- 〈2〉 家族交流会……年一回の全体交流会の中で行うものと家族グループ交流会があります。最も身近な支援者であるご家族が高次脳機能障害に関する情報を得る場、お子さんへの対応や支援のコツを他の家族と交流する場として、企画実施しています。
- 〈3〉 修学継続や復学に関する支援……ご家族のニーズにより、医療の立場からお子さんの高次脳機能障害について学校教員に伝え、ご本人の学校生活がより円滑になるように支援方法や学習環境についてアドバイスをしています。

これらの支援状況について確認し、方針を検討するために、月一回、小児高次脳リハプログラミングプロジェクト会議を行っています。メンバーは、医師、看護師、セラピスト、ソーシャルワーカーです。

小児期発症の高次脳機能障害への取り組みは全国的には始まったばかりです。当センターでこれまで築いてきた小児の支援方法等を他の支援機関に伝え共有していくと共に、支援方法・支援体制のさらなる向上に努めていきます。

児童発達支援センター 坂田



千葉リハ  
 ユーティナー会議



## 脳外傷友の会 第 14 回全国大会 in 島根

開催日：10月24日（金）25日（土）  
場 所：タウンプラザしまね、島根県民会館

全国支援コーディネーター研修会では、講演とシンポジウムにより、島根県の取り組みを学ばせていただいた。

島根モデルと呼ばれる地域に根差した仕組みは、地域の歴史や特性を十分に理解した展開をされてきており、地域で構築されてきたネットワークなどを活かしてきている。また、急性期、回復期、維持期といった医療リハの枠にとられない長期間にわたる継続的な総合的リハビリケアサービスの展開ができる機関として、精神科デイケアを中心に展開されている。

日本脳外傷友の会全国大会は、当事者活動奨励賞授与式では4名の方が表彰され、その後厚生労働省、文部科学省、国土交通省からそれぞれ国の支援の講義、さらに基調講演、シンポジウムが行われた。



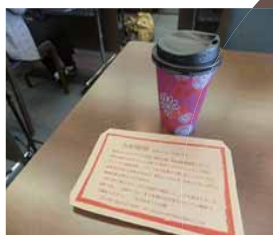
宍道湖の夕日は、松江のHPで夕日情報としてUPされている。  
「本日の夕日指数 100」

基調講演では、島根大学の小林祥泰 学長による「脳機能の回復と自己実現」とエスポワール出雲クリニックの高橋幸男 院長による「高次脳機能障害とともに地域で生きる」～脳損傷者のリハビリへの道と支援～ があり、医療から地域生活までの講演であった。シンポジウムでは、当事者と家族が3組、小児期発症、青年期発症、壮年期発症とそれぞれに発症のライフステージが異なる立場からの話を聞くことができた。大会前日には交流会も行われ、当事者や家族が主体となり、支援者がそれをサポートするすばらしい大会でした。研修会と交流会の合間には、宍道湖のとてもきれいな夕陽を眺めることもでき、優雅なひと時も味わえた素敵な2日間を過ごしました。



来年は、11月21日（金）、22（土）に東京で行われるそうです。千葉からも近いですので、ぜひ、参加してみませんか？

地域連携部 森戸



## 太助珈琲（たすけコーヒー）

全国大会の会場ロビーで当日販売されていました。大会のシンポジウムで登壇された当事者の西村太助さんがグアテマラから豆を輸入して、手焙煎を行った珈琲です。珈琲だけでなく、「ゆうきネット山陰」という自然食品の共同購入団体のメンバーの一員として、お仕事をされています。



## 神奈川県総合リハビリテーションセンター視察報告

地域支援の充実に向けて10月27日に支援コーディネーター、高次脳支援センタースタッフ総勢7名で神奈川県総合リハビリテーションセンターの視察を行いました。

センター全体（病棟、職能科、体育科、かもめ学級等）の見学、概要の説明後、相談支援コーディネーターの瀧澤学さんから地域支援センターの取り組み（関係機関との連携、通院プログラム、家族会との協働等）の説明を受けました。

神奈川県の単独事業として請け負っているネットワーク事業では、ネットワーク連絡会の開催、当事者・家族の集い、講習会の開催を行っています。高次脳に特化した事業所の開設に至った相模原市の紹介では、事業の成果として市町村単位での退院後の地域生活支援の確立、ケースの発見からその後の支援に至るまでの一貫した支援の構築、地域内での当事者家族会の開催が挙げられました。

当センターではこれまで個別のケースを通じての支援を中心に展開してきましたが、今後は地域単位での支援も充実していきたいと考えています。そのうえで、神奈川県総合リハビリテーションセンターの取り組みは『支援者を支援することでムーブメントが起こり、高次脳機能障害のある方にとっての社会資源が大きく広がっていく』ことを感じ、大変参考になりました。

来年度に向けて地域支援についてのビジョンを明確にしていきたいと考えています。

高次脳支援センター 阿部

## 千葉県千葉リハビリテーションセンター視察を終えて

さいたま市障害者更生相談センター  
高次脳機能障害者支援担当  
於保 明子 曲淵 祥子

11月13日（木）高次脳機能障害支援センターを見学させていただきました。

大塚センター長から『千葉リハビリテーションセンターにおける高次脳機能障害支普及事業と高次脳機能障害支援センター事業』について、広瀬STより『小児のリハと復学支援』について説明をいただきました。

リハビリテーションセンターには医療、福祉の施設があり、学齢児には隣接の特別支援学校など多くの専門機関の利用が可能です。高次脳機能障害支援センターはこれらの機関の利用と切れ目のない地域支援への移行のコーディネート役を担っています。医療機関の併設のない当センターの今後の役割として希望の持てるお話を伺うことが出来ました。グループ活動については成人のグループを見学させていただきました。プログラム、スタッフの指示や声掛けのタイミングも工夫されており、1つ1つの課題の中に、見る力、聴く力、表現する力などのトレーニングが取り入れられていることに感銘を受けました。まさに‘百聞は一見にしかず’です。

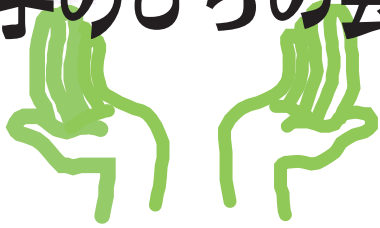
また、先駆的な取り組みをされている中でも、スタッフの皆さんが駆け出しの当市の話にも熱心に耳を傾けて下さり学び続ける姿勢の大切さを感じました。多くの学びを得た1日でした。武蔵野線の中から夕暮れの富士山のシルエットを眺めながら帰途に着きました。ありがとうございました。

於保様、曲淵様、ご寄稿ありがとうございました。



## 第一回

## 手のひらの会



手のひらの会は、千葉県内4つの高次脳機能障害の家族会と支援者のグループを5本の指と手のひらに見立て、この指と手のひらが当事者・家族を支えるという意味から名付けられました。

**開催日・場所** 11月16(日)  
千葉リハビリテーションセンター  
大ホール

1部ではまず全員が「ラジオ体操」で心と体をほぐし、次の「ジャンケン電車」では、負けた人は勝った人の後ろにつき、列を作るため決勝の時は長い2つの列が出来ました。

優勝者は「東葛菜の花」の綿貫さんの奥様で開会の言葉を、2位は「ちばの会」の吾妻さんで閉会の言葉を、それぞれ述べていただきました。

「〇×クイズ」でも全員が正解と思う〇×に向かい右へ左へ移動し大きな2つのグループが出来ました。

1部の締めは当事者の並木有貴さんのピアノで、「時代」「乾杯」を全員がホールの中央に集まり合唱、大いに盛り上がりました。



ジャンケン電車で長い列を作る参加者のみなさん



シンガーソングライターの余村よし子さん

2部は、千葉リハ「大塚高次脳機能障害支援センター長」の挨拶と参加全グループの紹介を皮切りに、高次脳機能障害の息子さんが苦勞して社会復帰を果たされ、自らはシンガーソングライターとして山武地域で活躍されている「余村よし子」さんの歌とギターに耳を傾けました。事故にあった息子さんの事を歌った「夏の終わりの日に」では目を潤ませる人もおり、更にギター伴奏で会の名前に因んだ「手のひらを太陽に」「1人の手」を合唱しました。

ト리는片道2時間をかけ参加した「南房会」のご夫婦のマジックでした。絶妙な会話と間で、会場を笑いの渦に巻き込み、締めてくださいました。

当事者から、若者の会・グループ活動等と一緒にいた人に会えて嬉しかったとの声もありました。

当日の参加者数は76名（内訳は当事者25、家族38、支援者13）と盛況でした。天候にもめぐまれ、何よりも事故も怪我もなく無事終了した事に感謝しています。

来年、再来年と会が続くことを願い、会場提供をいただいた「千葉リハビリテーションセンター」、参加をいただいた「VAICコミュニティケア研究所」、4家族会の当事者・家族の皆様にご心から御礼申し上げます。

ちば高次脳機能障害者と家族の会 角田





## 家族の集い



支援センターでは、昨年度まで、集団活動のメンバーの家族を対象とした「家族の集い」（「配偶者の集い」「親の集い」）を開催してきました。今年度は、年間テーマを設け、対象もリハセンター・支援センターが関わっている利用者の家族に拡大して行うことになりました。

年間を通して、現行の制度や利用できるサービスの確認をしながら、みなさんの具体的な問題を伺い、なお残る課題を明らかにして、これからの支援に活かして行きたいと思います。

26年度は『地域で自立して生活するということ』という統一テーマを設け、生活に関する多様な内容を取り上げます。

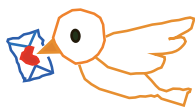
| 日 程                     | 内 容   |
|-------------------------|---|
| 7/23(水)<br>10:00～12:00  | グループホームの利用経験者の家族の話を聞く<br>講師 内木千鶴子氏(東葛菜の花会員)                   |
| 9/16(火)<br>10:00～12:00  | 日常生活自立支援事業について～一人暮らしを支えるサービス<br>講師 川上 浩嗣氏(千葉県社会福祉協議会地域福祉推進部長) |
| 11/25(火)<br>10:00～12:00 | 高次脳機能障害を持つ方と福祉サービスをつなぐ仕組み<br>講師 小川 祐子・桐木 彩(若葉泉の里 大宮センター)      |
| 1/27(火)<br>10:00～12:00  | 高次脳機能障害のリハビリテーションと生活での問題<br>講師 大塚恵美子(千葉リハ高次脳機能障害支援センター)       |

第1回のテーマは、住まいとして1つの選択肢である「グループホーム」では、実際に利用されている方のご家族の体験談を伺いました。

第2回のテーマは、一人暮らしの生活を支える福祉サービスである「日常生活自立支援事業」について、講師をお招きしてお話いただきました。

第3回のテーマは、「高次脳機能障害を持つ方と福祉サービスをつなぐ仕組み」として、相談支援専門員の方たちをお招きして福祉サービス利用の流れまでの具体的なお話をして頂きました。

毎回、十数名の参加者があり、お互いの困りごとを共有したり、講師に積極的に質問されたりと、有意義な場となっており、参加者からは、「まだまだ知らないことがあり、勉強になった、また教えてほしい」などの声が聴かれています。





new!!

# こーちゃん頭の体操をする。

『オーイ!こーちゃ～ん!』四コマ漫画連載が終わり、新シリーズが開始しました。題して、『こーちゃん頭の体操をする。』皆さんも一緒に、頭の体操をしましょう。

**問題** ことばを探して、使わない文字を見つけよう!

### 【問題のねらいと効果】

たくさんの「ひらがな」の中から、提示された 11 個のことばを探します。縦、横、斜めの並び方は問いません。使わずに残った文字を並べて、下記の 4 つの の中に入ることばを作ります。視覚的な注意力とことばを想起する力を高めます。

|   |    |   |   |   |   |
|---|----|---|---|---|---|
| す | ず  | む | し | か | い |
| り | ぶ  | ら | 一 | き | ち |
| く | が  | ど | く | し | よ |
| こ | う  | よ | う | じ | う |
| ら | さん | ま | み | む |   |
| さ | つ  | ま | い | も | あ |



「同じ文字を繰り返し使うこともあるから、見つけたことばを丸で囲むといい」って、しえんちゃんと言ってたな。



こがらし(例) こうよう  
さつまいも いちょう  
ぶり くり どくしょ  
すずむし もみじ かき  
さんま

「予定をわすれないように〇〇〇〇を使おう」

答えは P7 に掲載

## information

### 編集後記

第 11 回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

## 高次脳機能障害

### ～その症状と小児期の諸問題

2015年1月17日(土) 千葉市文化センター アートホール 13:00-16:40 定員 500 名 入場無料

第 1 部 講演 13:10-14:40  
「高次脳機能障害の症状と小児期における対応」  
帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子氏

第 2 部 シンポジウム 15:10-16:40  
「小児期発症の高次脳機能障害をめぐる現状と課題」

- 小児科医師の立場から 荏原 実千代氏 (千葉県千葉リハビリテーションセンター・第一小児神経科部長)
- リハビリスタッフの立場から 廣瀬 綾奈氏 (千葉県千葉リハビリテーションセンター・リハ療法部主任言語聴覚士)
- 特別支援教育の立場から 尾崎 美恵子氏 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校教諭(特別支援教育コーディネーター))
- 保護者の立場から 木村 温枝氏

お申込み 裏面の申込書記入後 Fax・郵送または、QRコード・E-mail: kojinoushien@chiba-reha.jp にて受付  
お問い合わせ 千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター  
〒266-0005 千葉県千葉市緑区曾田町1丁目45番2  
Tel 043-291-1831(内 198) Fax 043-291-1847

この講習会は(一社)日本損害保険協会の助成を受けて実施しています。

夏から初冬まで季節もめまぐるしく移る時期でしたが、今は木々が見事な色づきを見せてくれています。支援事業でも秋になって、見学のお客様をたくさん迎え、私たちも外に出掛けて、県外の情報をたくさんいただきました。この号ではその一部も記事とさせていただきます。降り注ぐ太陽から得たエネルギーを木々が実らせ花咲かせるように、支援事業もこの年度の実りを得て、来年度どのように新しい事業の花咲かせるのか、ここから数か月じっくり取り組んでいくこととなります。利用者の皆さま、そして地域の支援機関の皆さまの声が何よりの肥やしとなりますので、事業へのご意見ご要望をいただけるとうれしいです。(〇)

表紙のこーちゃんが『60』と掲げていますが、不思議に感じた方はいらっしゃいましたか。2001年から高次脳の情報誌を院内に発信し始め、今号で、60回目の記念という意味です。平成18年にモデル事業が終わり、普及事業として展開しても「情報発信をすることは大切」と、前センター長の言葉通り、掲示板を発行し続けました。新センター長から「掲示板の発行ね」「原稿お願いします」と原稿依頼者へ声を掛けていただけたおかげで、今号は発行日までに編集が終わりました。「ああ、締切過ぎて！」と催促しながら、編集していた頃が懐かしい.....(-\_-)(Y)



千葉リハのロビーもクリスマス仕様